

遺体に触れて探し回った

素手で…放射能なんてわからなかった

私と平和

先日、久しぶりに福岡の叔母と会ったときに、もう 60 年以上も前に癌で亡くなった叔母の夫（私にとって叔父）が、広島で入市被爆をしていたことを初めて知りました。当時、呉の兵器工場に動員されており同僚の一人が原爆落下の際に広島市内に行っていたので他の同僚の方々と投下された翌日に探しに行ったそうです。それから十数年後叔父は癌がみつかり若かったこともありあつという間にこの世を去りました。

「誰にも言ったことはなかったけど…」と叔母はふと思い出したようにこの話を私にしました。叔母は 93 歳です。叔父が死ぬ前に「放射能なんてわからなかったから、素手で何人もの遺体に触れて探し回ったから、あの時だったのかなあ」と言っていたと。叔母達は福岡で暮らしていたので周りに被爆者の方は少なく、親戚にもあまり知られたくないと思っていたのか、その同僚の方に申し訳ないと思って言わなかったのかはわかりませんが、若くして夫を亡くし苦勞して生きてきた叔母の生涯を思い、原爆が落ちていなかったら叔母には違う人生があったのだらうと思いました。そして、そんな思いをした方がたくさんたくさんいたのだらうと。

私は平和の中で生まれ、育ち、それが当たり前のことだと思い生きてきました。自分の身内に原爆症で命を落とした人があることも全く知りませんでした。与えられてきた平和は決して永遠のものではなく、当たり前のものでもなく、自分たちの手で守っていかなくてはならないのです。核兵器廃絶は私たちが未来を生きるためには必ず成し遂げなくてはならない目標だと改めて感じました。

（健康企画社長 藤木郁子）



今週の署名カウンター(6/9集約)

05767 筆

先週は 127 筆の署名が集約されました。街頭で 35 筆、友の会から 66 筆、ピースチャレンジは 7 件の応募・内 5 件が健康企画からでした。6000 筆まで 233 筆です。ピースチャレンジは第二弾募集中です！

